

広野町の復興をアピール

「広野」ふる里ふれあい「マラソンを開催」

第3回広野「ふる里ふれあい」マラソン、復興に駆けけるリレーハーフマラソン
2017を1月29日に開催しました。

今回は、平成28年12月に広野区間が開通した、県道広野小高線（防災緑地）をコースの一部としており、県内外のランナー約700

人が、太平洋や復興の進む広野の町並みを眺めながら、思い思いのペースでレースに臨みました。
また、特別ゲストとしてご来場いただいたリオデジャネイロ五輪女子レスリング競技金メダリストの登坂絵莉さんと川井梨紗子さん、北京五輪男子バレー日本代表の齋藤信治さん、富岡町出身のプロレスラー宮

本和志さんが、ランナーを激励したり、表彰式で上位チームに記念品を手渡すなど、大会に華を添えてくださいました。



車上から、沿道の人々に手を振る特別ゲストのみなさん
(写真左から) 宮本和志さん、川井梨紗子さん、齋藤信治さん、登坂絵莉さん



沿道には大勢のマラソンファンが訪れ、マラソンランナーに「頑張れ!」「頑張って!」などと声援をおくるなど、同じ時間を共有し楽しんでいました。
(広野駅前通り商店街)



特別ゲストから表彰を受け、記念撮影をするリレーキッズマラソンの部の入賞者



登坂絵莉さん、川井梨紗子さん、2人の金メダリストに迎えられてゴールするリレーファミリーマラソンの部の親子

チンタオサウルスが広野町役場に帰還

2月14日、東日本大震災で壊れた大型草食恐竜「チンタオサウルス」の化石の複製標本（高さ約3.5メートル、長さ約7メートル）が、修復作業と「恐竜博2016」の巡回展示を終えて広野町役場に帰ってきました。

材料を強度の高い樹脂製とし、姿勢もかつての直立から最新の研究に基づいた前傾に変えました。

除幕式では、遠藤町長が謝辞を述べ、修復プロジェクトの発起人となった長谷川善和先生（群馬県立自然博物館名誉館長）をはじめ、真鍋真先生（国立科学博物館学芸員）や佐藤たまき先生（東京学芸大学准教授）などの関係者と広野小学校4年生29人が出席して帰還を祝いました。

この標本は、昭和61年にヒロノリュウの化石が発見されたことを契機に、昭和63年に同種のチンタオサウルスの複製標本を購入し、役場1階ロビーに展示していたもので、長年にわたり町おこしのシンボルとして親しまれてきました。

震災時は激しい揺れで頭部が落下し、経年劣化もあって修復が困難な状態にありましたが、専門家の協力もあって、クラウドファンディングで支援を募り、修復費用を確保しました。

標本の修復にあたっては、



広野町役場に帰ったチンタオサウルス複製標本

名称は「大平未来団地」

第2期災害公営住宅4月入居開始



建物の工事がほぼ終了した第2期災害公営住宅

2月6日、大平地区に建設中の第2期災害公営住宅の名称を決める選考委員会が開催されました。

昨年12月から1月13日までに応募のあった作品の中から、『大平未来団地』を選んだ後、住民が新しい未来への一歩を踏み出す団地になるよう未来を強調するため『大平未来団地』（おひらみらいだんち）としました。名称選考委員会で、遠藤町長が委員に委嘱

状を手渡した後、挨拶しました。

この団地は、6世帯が入居できる木造平屋の集合住宅1棟、1戸建て8棟の計14世帯が入居でき、間取りは集合住宅が2DK、1戸建ては2LDK。住民同士のコミュニティを維持できるよう集合住宅内に共用スペースを設け、住民がいつでも集まって会話できる環境を整えています。



住民の憩いの場となる共用スペース